

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		アフタースクールクローバーキッズ麻布十番				公表日 2026年2月21日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	<input type="radio"/>		テントやパーテーションを活用し空間を分けている。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	<input type="radio"/>		規定の基準に則った配置をしています。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	<input type="radio"/>		誰にも見やすいところに時間割を掲示。入口の階段は、若干、急なため、職員が寄り添う等の配慮をしながら利用。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	<input type="radio"/>		時間割に掃除の時間を組み込み実施。帰宅後に、職員が不足部分について実施。加湿器を導入している。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	<input type="radio"/>		必要に応じて使用できる部屋（静養室）があり、職員とマンツーマンで関わったり、クールダウンを図ることができる。ポップアップテントも利用。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	<input type="radio"/>		毎日、振り返りを実施。月1回程度、MTGを実施。	手法の一つではないので、更に良い方法がないかを探していきます。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		1年に1回、事業所評価を行い、改善につなげている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		朝礼・終礼時の振り返りに加え、運営企画会議等を定期的実施している。また、個人面談を定期的実施している。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		区の運営指導を受け、指摘事項の改善を図っている。	今後、第三者機関による外部評価の実施も検討中です。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	<input type="radio"/>		月1回の事業所内研修をはじめ、様々な研修の案内があり、オンライン研修、実地研修、共に、受講できる環境がある。	事業所の年間研修計画に基づいた研修の実施。それ以外に、個人での学びに合わせて、必要な研修を受講するようにしています。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	<input type="radio"/>		5領域をふまえたプログラムを公表している		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	<input type="radio"/>		定期的アセスメントを行い、保護者との対話の中で療育的なニーズを共有し、管理者・指導員でモニタリング会議、支援計画会議を実施し、それをもとに計画を作成している		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	<input type="radio"/>		個々の児童の担当児童指導員がモニタリング記録を報告、法人内会議を設定し、児童発達支援管理責任者とともに個別支援計画を策定		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	<input type="radio"/>		普段から、支援計画が共有され、それを軸に支援を行っている	書面は見られる状況にあり、社内共有ができています。必要な場合は、基礎情報として個別支援計画に立ち戻ることを確認しました。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	<input type="radio"/>		社内情報共有ツールを活用し、日々の行動の履歴や申し送り、共有等を実施。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	<input type="radio"/>		個別支援計画に基づきながら、本人の状態像に合わせて人との関わり方の経験を積み上げることで、社会性を身につけていきます。「自分で判断し、行動できること」を第一に知識よりも思考力や判断力・行動力を重視し、主体的・協働的に動けるように支援するとともに、自己決定力を育てます。		

適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○	担当者が草案作成し、それを元に全員で会議を行っている	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○	原則、日ごとに変えています。 また、年間行事での季節感等を取り入れたプログラムを企画しており、同じ曜日の同じプログラムは、半年以上開けている。月に1、2件は、新しいプログラムを取り入れている等の工夫を行っている	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○	カテゴリー別に分かれた構成をとっています。1日の過ごしの中で集団活動と個別活動を適宜組み合わせるプログラムを取り入れています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	登所児童1人1人のめあて、全体の過ごし、集団プログラムの内容を共有して、共通認識を図っています。活動プログラムは、1週間前を目安に指導案を作成し、周知している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○	支援終了後の振り返りは、児童一人一人について、職員間で情報共有や気づきの共有を行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	管理支援ソフトを使い、児童一人一人について振り返り記録を利用毎に行ない、指導の検証・改善と職員のスキルアップに役立てている	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○	個別支援計画期間に応じてモニタリングを行い、新たな個別支援計画の立案に活かしている	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせることで支援を行っているか。	○	将来の自立支援のための総合サポート型の事業所として「多世代との関わり」「コミュニケーション力向上」「学習」を軸に社会性を養う	
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○	おやつ時や活動でのセレクションを通して、自ら自己決定して見通しを立てる機会を設けることを軸として支援。発語がない、言葉で伝えるのが難しい児童に対しては、指差して選択肢、意思表示できる教材を準備している。		
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○	主に、管理者兼児童発達支援管理責任者が参画。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○	学校と連携し、様子を見学に行くなど対応をしている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○	保護者様を通じて、必要な情報共有を行っている。必要や保護者様からの要請に応じて、更なる連携も実施。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		該当する児童の利用は、現在のところありません。継続した支援のため、できる限り情報共有を行うよう努めています。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		該当する児童の利用は、現在のところありません。必要に応じた情報共有に努め、利用終了後の療育環境が良くなるよう努めます。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○	地域の発達支援センターの見学会・研修に2回参加している。	研修の案内を頂くこともあり、そういったものも今後は有効活用していけるよう検討していきます。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○	外部児童との交流は慎重に行なっていく	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		状況に応じて、参加を検討してまいります。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○	日々の連絡帳、送迎時の会話で情報共有を行っている	
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○	エントランスに研修の掲示を行う	事業所での様子や、見立て・手立てを共有することにより、一貫した関わりを持てるように努めています。	

保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約の際及び、法改正などのタイミングで適切な説明を行うようにする。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の視点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		保護者、児童本人との定期的な面談のほか、都度連絡をとりながらその時の課題やニーズを相互理解するようにしている	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		半年に1回モニタリングの面談を実施し、個別支援計画書に同意を得ている	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		お迎えの際や個別面談、LINEを通じて保護者からの相談を受け、必要な助言を行うようにしている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	○			保護者会は現状、設けておりませんが、必要に応じて、保護者同士で情報交換や連携だけでなく機会を設けていくことを検討致します。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情対応窓口を用意し、迅速に対応できるようにしている	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		毎月1回、プログラムカレンダーを配布したり、集団プログラムについて、インスタやブログ、HP等に掲載している	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報、鍵付きのキャビネットに保管するなど個人情報の保護を行います。療育の情報共有も参加者限定のシステムで行うようにしている	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		個々の事情や特性に応じた情報伝達に努めている	
非常時等の対応	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○			麻布十番としては、行っておりませんが、弊社の他の事業所にて、地域の方もご招待した餅つき大会を行ったりしており、そちらへの参加呼びかけをおこなったりしております。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		緊急時対応マニュアルなどを整備し、非常時の対応を行えるようにしています。事業所内、入り口に避難経路を掲示し、日頃から確認できるようにしている	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		業務継続計画（BCP）を策定し、年2回以上避難訓練を行うとともに、消防署に事前連絡して行う避難訓練も実施。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		保護者様と連携して、必要な医療情報を共有させていただいている	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		利用児童のアレルギー表を作成し、おやつ等の際にチェックを行うようにしている	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		職員は、数カ月に1回、子どもの安全確保のためのチェックリストをして、研修と訓練を行なっている	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		上記の点検結果をLINEにて、保護者に周知	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハット事例については、当日中に報告書を作成し、再発防止に活用。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		外部の研修を受講し、学んだことを元に社内研修を実施。マニュアルを整備し、職員には、チェックリストでの確認を実施。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		マニュアルを整備し、研修等により職員に周知。保護者に対しては契約時に説明を行い、必要に応じて個別支援計画に記載。		